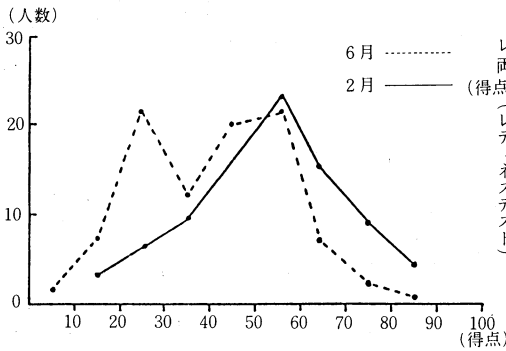


資料3 中学英語M.P.テスト結果の変移図



資料4 英語が好きですか

ア、はい イ、どちらともいえない ウ、いいえ
対象生 1. 2組(6月 85名、1月 89名)

	ア	イ	ウ
中学時代	18.8% (16人)	41.2% (35人)	40.0% (34人)
高校(6月)	18.8 (16人)	63.5 (54人)	15.3 (13人)
高校(1月)	25.8 (23人)	60.7 (54人)	13.5 (12人)

資料5 グループ学習を取り入れて授業をしていますか、これについてどう思いますか。

ア、これからも続けてほしい
イ、あまりやってほしくない

	ア	イ
(6月)	88.2% (75人)	11.8% (10人)
(1月)	91.1 (81人)	8.9 (8人)

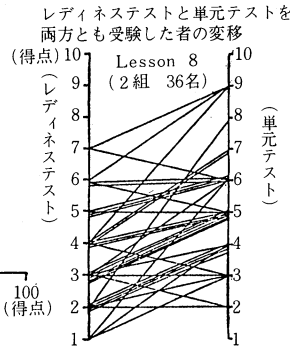
資料6 一斉授業に比べてグループ学習の時の意欲はどうですか。

ア、グループ学習の方が意欲が湧く
イ、かわらない
ウ、一斉学習の方が意欲がわく

	ア	イ	ウ%
(1月)	58.4% (52人)	33.7% (30人)	7.9 (7人)

○教材研究や指導案の研究を含めたグループ学習導入の場面・時間・方法等の改善
○英語指導助手とのチーム・テイーチングによるグループ学習の検討
などが今後に残された課題である。

資料2 レディネステストと単元テストの得点の個人別推移



学習事項を生徒がどの程度習得している前に、その課の基本的な課題に入る前に、その課の基本的な学習事項を生徒がどの程度習得しているかを調査し、その課の指導計画の立案に資する。

(一) 授業案の概略(資料1参照)

授業直後にその授業についての調査をしたところ、出席者四十一名のうち三十九名が「グループでの取り組みは良かった」と回答し、また、「グループでの取り組みは悪かった」と二名が回答した。また授業内容について「よく分かった」が七名、「だいたい分かった」が二十九名、「あまり分からない」が五名、「ほとんど分からない」は無しであった。また、次時の初めに予告なしに十点満点の

(二) 学習前と学習後の変容(資料2参照)

復習テストを実施した結果、平均点が五・三点であった。予想平均点を下回っていた。このことから、「グループ学習はともすれば生徒が「分かった」ような感じになるだけで、実際にはそれほど分かっていない結果にもなりかねない一面を持っていることを知らされた。

(三) 学習意欲が喚起されたこと

グループ学習で生徒ができるだけ英語を使用するようにと、クラスルーム・イングリッシュを作成した。生徒によつては、あるいはグループによつてはこれを片言ながら英語でトライする積極性がみられるようになった。しかし、まだまだ不十分である。生徒の「話すこと」への意欲をさらに高めるように指導法やクラスルーム・イングリッシュの改善を図りたい。

四、研究の成果と今後の課題

(一) 一斉・グループ・個別指導の効果

(二) 言語活動活性化の芽が生まれたこと

(三) 学習意欲が喚起されたこと